

7月



2021年

みやま

第278号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

本年の標語『学びと感謝を常に忘れず 医療に対し誠実な病院 ～それが平川病院～』

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> 〔e-mail〕 hhsp1966@violin.ocn.ne.jp



堀江 順 事務部長

令和3年7月から正式に平川病院事務部長に就任しました堀江順さんです

昨年4月といえば、新型コロナウイルスのため1回目の緊急事態宣言がでていたころですが、平川病院にはもう1つ、大きな問題がありました。それは、事務部長がいない状態になっていたことです。次長が代行してくれていましたが、全体を取り仕切るといことはたいへんなことで、容易ではありませんでした。ちょうど、世間では大企業が早期退職を募っている時期で、いくらでも候補はいるだろうと、アドバイスをくれる人もいましたが、なかなか決まりませんでした。有名外資の商社マンや社長経験者まで30人くらい候補者がいましたが、やっと、堀江さんに辿り着きました。一般病院の医事課を中心に、真面目に事務職をしてきた経験、国立病院を何病院も転勤してきたことで身に着けている常識水準の高さ、趣味はジョギングと、何より実直で優しい人柄が気に入りました。まだ、51歳という若さで、私より一回りも年下の事務部長です。これから、平川病院は次の世代にバトンを渡す時期を迎えます。次の世代のための準備も一緒にしてくれと思います。どうか、楽しみに見守っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

院長 平川 淳一

【表紙】院長挨拶 【P2】病棟たより（東4病棟）【P3】作業療法科から 【P4】地域生活支援室より
【P5】みなさまに安心して平川病院を利用して頂けるための取り組み
【P6】企画準備室、室長を拝命いたしました

コロナ禍における入院時の感染対応

地域生活支援室より

現在、当院では感染対策の1つとして、安心した入院生活を送る事ができるように、入院時にPCR検査を行っています。他院からの入院などは担当医や感染委員会で確認の上PCR検査を行わない場合もあります。令和3年5月の入院では45名中25名の患者様が検査を実施しています。

入院時の流れ（PCR検査を行う場合）

1. 事務所で受け付け

2. 待合室へのご案内：現在外来患者様とは別の待機場所となっています。

『みやま2021年2月号に掲載』現在は診察も行えるようにパソコンも設置しました。

①外来看護師による検温や問診：問診では、関節痛・倦怠感・咳・息切れ・呼吸困難・味覚・嗅覚異常の有無を確認します。

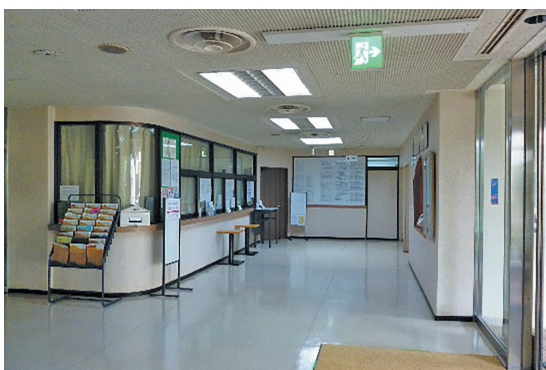
②荷物の整理：PCRの結果が出るまでの期間（およそ2日。金曜日の入院では結果が遅くなる場合もあります。）私物の持ち込みは可能ですが、荷物は一旦病棟内でお預かりし、貴重品もご家族や経理に預けることとなります。しかし、眼鏡や本などこれだけは持っていないと入院生活に支障があるものは、診察時にご相談ください。

3. 診察終了後：診察が終了するとご家族の方や同伴の方は病棟に入出が出来ない為、ここで患者様と別れてご家族等は手続きとなります。

4. PCR検査実施：PCR検査を行う場所へ移動し診察医が検査します。

インフルエンザ検査のように鼻に綿棒より細長い棒を入れ採取します。

5. 病棟へ移動：病棟看護師と共に入院する病棟へ移動します。



1. 左手側が事務所受付



2. 入院時待機場所（兼、診察室）

入院はただでさえ不安に感じるかもしれません。今回入院時の流れをお話することでイメージしやすくなり、少しでも不安を軽減できれば幸いです。

当院では『患者さまの不安をとること』を理念としています。今後も外来で不安の軽減や不安に感じるような声掛け対応に心掛けていきます。

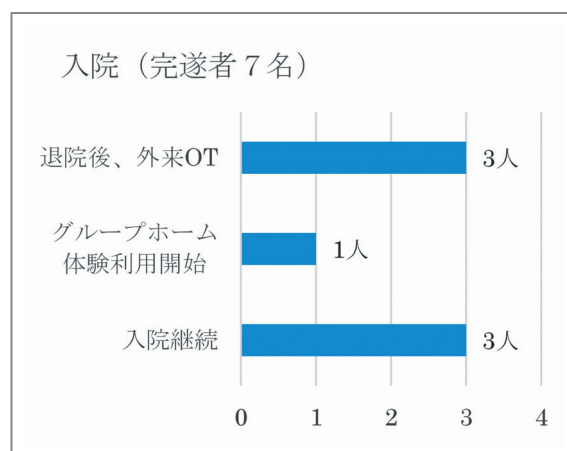
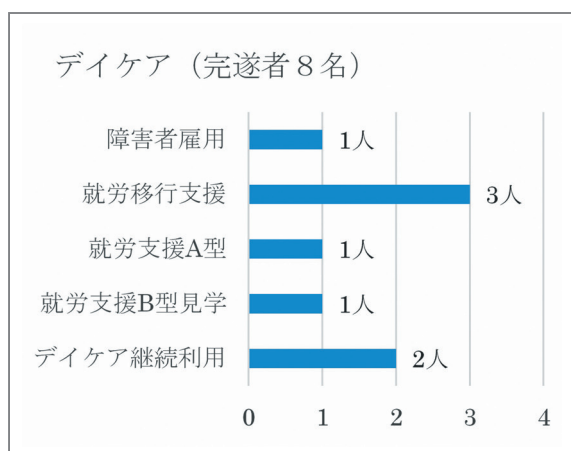
看護部 外来 師長 高木 路子

HCAT-Jについて 第2報

作業療法科から

昨年11月の地域生活支援だよりで紹介されたHCAT-Jについて、今回はOT科からの発信です。

HCAT-Jは認知機能リハビリテーションの1つで、パソコンゲームと言語グループを1回1時間、週3回3か月行います。当院では平成30年から導入し、これまで15名の方が完遂しました。大変なトレーニングですが、終了後参加メンバーからは「家の掃除がちょっと面倒ではなくなった」「本が集中して読めるようになった」といった感想をいただいています。そして、QOLの改善だけでなく実際に次のステップアップができた方もいました。グラフはHCAT-J終了半年後までの転機を示したものです。



グラフのようにデイケアからは8名が完遂し就労につながった方が計5名いました。入院中の参加メンバーからは7名が完遂し3名の方が退院後、外来OTへとつながりました。また、退院には至らなかったメンバーでも、グループホーム体験利用を開始した方や、自分の特徴への理解が深まったことで退院に向けた行動目標を再構築できた方がいました。これらも大きなステップアップです。

HCAT-Jが生活機能や認知機能の向上に少なからず寄与した結果、上記のような成果へとつながったものと思われます。そして一番は、目標に向かって頑張った参加メンバーの努力が実を結んだのだと感じます。就労や退院後の生活に向け力をつけたい方はもちろんのこと、変わりたいけど何をしたらと悩んでいる方にぜひおすすめしたいトレーニングです。今後も作業療法科、デイケア科、心理療法科の3部署合同で運営し、頑張る参加メンバーの道のりをサポートしていければと思います。

作業療法科 作業療法士 小松 沙耶香

東4病棟の特徴 新人看護師のメッセージ

私は、4月に准看護師の資格を取得し、東4病棟で准看護師として働いています。

私が所属している東4病棟は、精神療養病棟入院料を算定する、男子閉鎖病棟です。病床数は45床です。

主な入院患者様の疾患は統合失調症が大半を占めて、他に躁うつ病、アルコール依存症、高次機能障害、薬物性精神病があります。入院患者様の年齢は20代から80代と幅広く、平均年齢50歳前後です。

当病棟は心身の健康を取り戻しながら、日常生活を調節する場です。朝は患者様も職員もホールや廊下に出てラジオ体操を2番まで行っています。心身がすっきり目覚めることで自律神経も整い、代謝も上がります。毎朝決まった時間に行うことで生活リズムも整うことから、健康な体を手に入れることができます。ラジオ体操は意外と体力を使います。午後の3時にはガッツ体操（踵上げ、腿上げ、スクワット）という転倒予防体操を行っています。運動を継続的に行うことで転倒予防対策にもなり、活動性の向上にもつながります。

当院では医師、看護スタッフの他に他職種との連携を密にしています。東4病棟でも様々な職種で日常生活能力・コミュニケー

ションスキルの向上を目指して、対人関係の構築や意思の疎通、病気とうまく付き合える病状の軽快や再発防止などのプログラムを行い、退院支援につながるよう取り組んでいます。



筆者

病棟に配属されて3か月が経とうとしています。できることが少しずつ増え、覚えることも沢山あり毎日が充実しています。今は分からないことや慣れないことがありますが、先輩看護師に優しく丁寧に指導して頂けて新人にはとても恵まれた環境です。一つ一つの学びが増えるにつれ精神科看護の奥深さを実感しています。早く独り立ちできるよう努力し、この病棟の患者様が一日も早い健康回復の支援を出来るよう頑張りたいと思います。

地東4病棟 准看護師 中澤 悠飛

みなさまに安心して平川病院を利用して頂けるための取り組み

コロナ禍では、学校行事や旅行、会食、スポーツ観戦など様々な場面でそれまで当たり前のよう
にできていたことができなくなっています。平川病院でも感染症対策のためいくつかのルール変更
に伴い、患者様やご家族のみなさまにご不便をおかけしていることが続いています。変更されたこ
ととして、外部の方に建物の中に入らせていただける場所が、東館の事務受付前のロビー（以下、ロビー）
のみとなり、そのため、今まで通りにできなくなったことがいくつかあります。例を挙げると…

	コロナ前	コロナ後
面会	各病棟内で面会、またはロビーなどで面会	面会は中止、テレビ電話 (iPad: 予約制 職員がセッティング)で面会
洗濯物の交換	病棟内、病棟の前等で受け渡し	病棟スタッフがロビーに来て受け渡し
入院前の病院見学	ご家族、場合によってはご本人にも病棟の 見学に案内していた	病棟内の見学は中止。見学以外は、面談で の相談は継続している

退院に向けての準備についても、例えば、高齢の患者様が老人ホーム等に退院する際に、施設の
方が来院され、入所前の面会を行うことが多いのですが、前述の通り外部の方に病棟にはいい
ただことはご遠慮いただいています。そのため、面会できないとしてしまうと、退院に支障をき
たすため、病棟から看護師等がロビーに出向いて患者様の情報提供をしています。何とか入院退院
の動きを止めず必要なことは工夫をしてやっていこうとしています。また、当院には、高齢の患者
様も多く入院されており、死亡退院も時にあります。そのような時期が迫っている患者様にはご家
族に医師や病棟スタッフから病状をお伝えし、感染対策をしっかりしたうえで、病棟で直接面会を
していただいています。当院では退院時に「退院時アンケート」を行っていますが、死亡退院をさ
れた患者様のご家族から「面会はあきらめていたが、最後に直接面会でき、見送ることができた」
と書いてくださった方が複数いらっしゃいました。困難な状況でもどうすればいつもの対応が
できるかを常に考えて行動する大切さを職員一同、改めて認識しています。

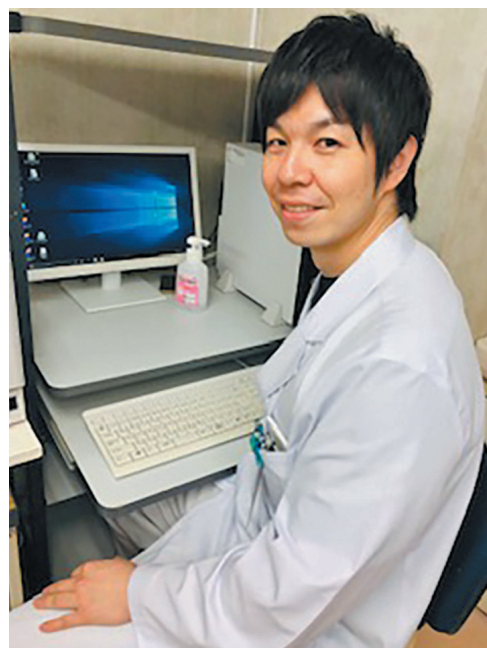
八王子市では市内の医療機関や市役所、保健所、高齢者施設、学校関係者などが毎週、COVID -
19 会議をWebで行っています。当院の院長や河合副院長が参加し、院内の感染対策に生かすだけ
でなく、八王子市全体の情報共有や関係機関との連携に務めています。

我が国で緊急事態宣言が発出されたのは、東日本大震災の福島原発事故と太平洋戦争開戦の時
だそうです。今はそれに匹敵する難局といえるのでしょうか。だからといって、「できない」と済ませ
ることなく、患者様や職員を感染症から守りながら、必要と思われることをどうすれば提供できるか、
日々、考えながら業務に就くことが平川病院の職員に課せられています。

企画準備室、室長を拝命いたしました

栄養科主任兼任で企画準備室室長を拝命いたしました田中康之と申します。企画準備室とは、令和3年4月1日より平川病院の新規事業として立ち上がり、「院長の想い」を形にしていくための院長直轄の組織となります。「今、平川病院に何が必要なのか」を熟考し、病院として停滞することなく発展していくために、院長に企画・提案をしていくことを目的としております。

今回、栄養科主任の私が企画準備室室長という大役をおおせつかり、その責任の重大さを改めて痛感しております。病院理念である「患者さまの不安を取ることを最優先に考え、病院の機能面や職員の働きやすい環境作りなど企画・提案していきたい」と思っております。まだまだ若輩者ですが、平川病院の発展のために精一杯尽くしてまいります。今後とも、より一層のご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



栄養科 主任 管理栄養士・企画準備室 室長
田中 康之

当院は南多摩医療圏の地域拠点型認知症疾患医療センターです

東京都では、平成24年に指定された「地域拠点型認知症疾患医療センター」12カ所（当院含む）と平成29年11月迄に指定されている「地域連携型認知症疾患医療センター」40カ所、合わせて52カ所の医療機関において、認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくりを進めています。

認知症に関するご質問がありましたら、各地域のセンターまでお問い合わせ下さい。

尚、センター指定状況や役割の詳細等については、東京都公式ウェブサイト『とうきょう認知症ナビ』でご確認いただけます。

[とうきょう認知症ナビ](#)

[検索](#)

編集後記

梅雨明け間近、夏と言えばスイカ……。英語：Water melon 漢字：西瓜（中国語のスイクウと言う発音から日本語ではスイカになったようです）、単なる瓜、子供が好き、栄養価であるの？。スイカは90%が水分で、糖分、カリウム、マグネシウム、ミネラルを含み、食塩を加えて食べればスポーツドリンク並の効果あり。アミノ酸が含まれ、むくみの改善効果、新陳代謝を促し、肌の健康を保つビタミンA、美肌を保つリコピンも大変豊富、ビタミンCなど美白効果やシワの予防効果あり。熱中症予防、ダイエット、女子力UPスイカには夏のカラダが喜ぶ栄養素がぎゅっと詰まっています。ちなみにスイカを切る時に、縦縞の部分に種が並んでいるので、縦縞の間に包丁を入れると切り口に種がありません。今年の夏は、スイカの実力を見直しませんか（＾＾）

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

